

波柵等

自転車が本庁舎南側通路からまちの庭に進入しないように、まちの庭の北側に低めの波柵等を設置し、東西に歩行者の入口を設置します。

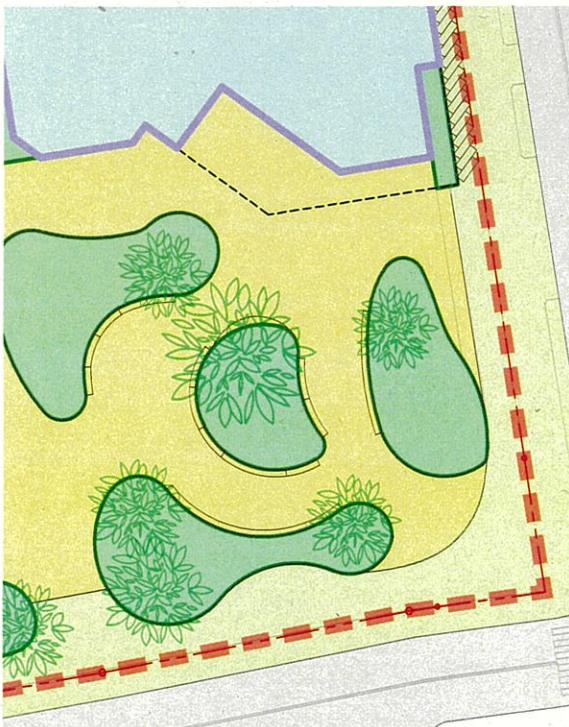


子ども用遊具

子どもにとっても魅力的なひろばとするため、子ども用の遊具を配置します。

小築山

小さい子どもが、西側通路に飛び出さないようにするための低い築山(高さ70cm内外)と低木植栽を設けます。



縁台ベンチ

既存の地震計(約1.0m四方)を覆うように、楕円や雲形の縁台ベンチ(箱型)を設置します。



写真の縁台ベンチのイメージ

ベンチ

憩いの場となるようにベンチを複数設置します。

草丈が低い植物

草丈が低い植物が地表面を覆い、砂埃が立たず、身体に優しいひろばにします。メンテナンス(養生)による使用できない期間ができるだけ生じないように配慮します。

木陰

既存の樹木を一部残します。夏は樹木により木陰となり、冬は落葉するため、陽だまりになります。目線レベルでは見通しが確保できるように配慮します。



周辺とつながり、
人々が集う、
まちのはなれ

①東側への配置

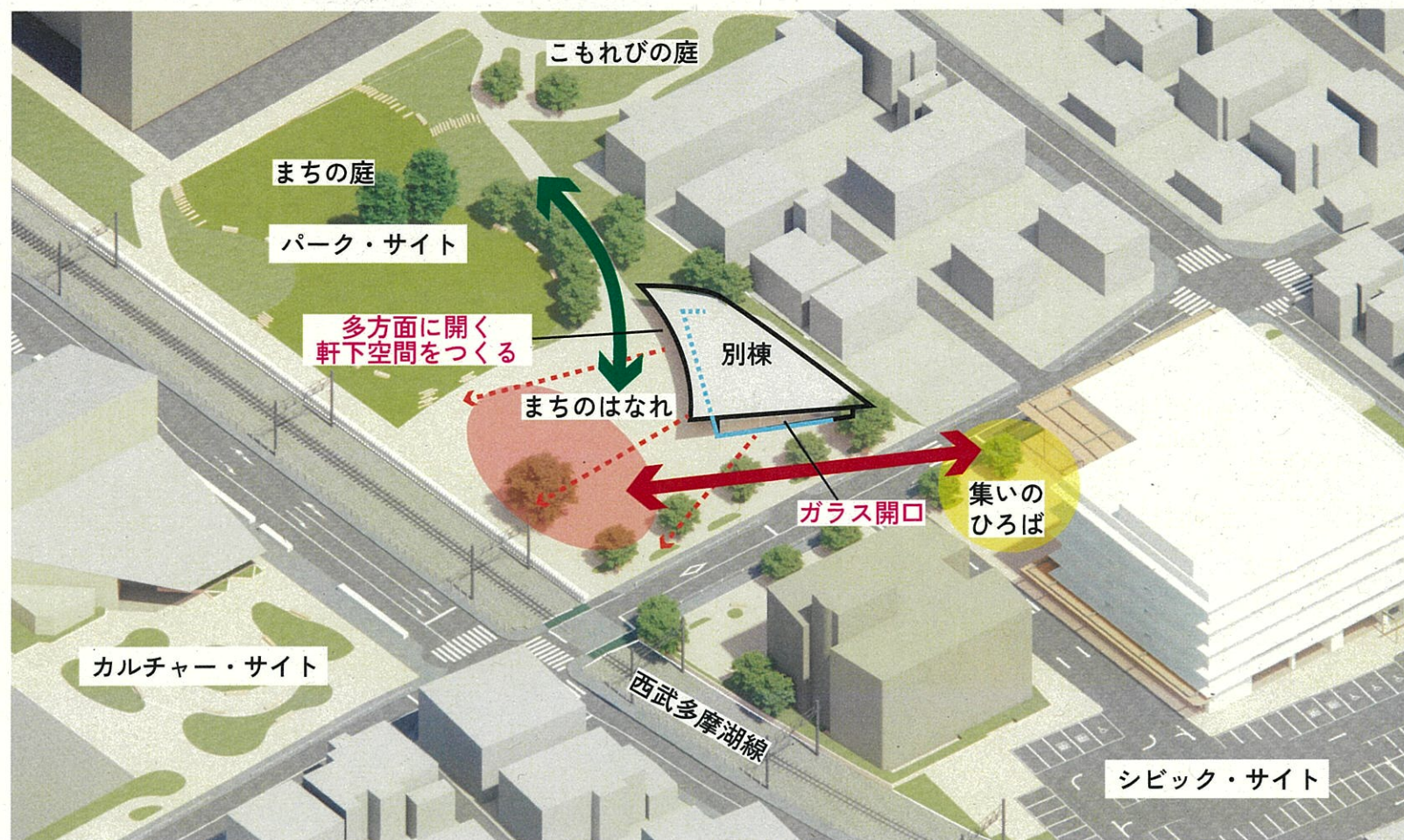
- ・「カルチャー・サイト」や電車から、「まちのはなれ」の活動が見えることを考慮した配置にします。
- ・隣地に対し、別棟がひろばからの音や視線をさえぎる役割を担います。

②周辺環境をつなぐ外形

- ・「まちのはなれ」と「集いのひろば」が視覚的につながるよう、南側は前面道路に対して斜めの外形とします。（赤矢印）
- ・「まちのはなれ」と「こもれびの庭」がつながるよう、西側は通路からの緩やかな曲線をもった外形とします。（緑矢印）

③ひろばに対して開く

- ・多方向に面するガラス開口を設置し、ひろばに対して開き、内部空間とつながります。
- ・ガラス開口部分には、深い軒をつくり、外部のテラス席として機能させます。



別棟計画 (令和5年9月時点)

1 外観イメージ



前面のひろばとつながる開口部・庇のデザイン



こもれびの庭につながる屋根形状、木々と呼応する外壁デザイン

2 平面イメージ

